

高田
本山
だより

安濃郡の増信講

総務 高林 亮英

「……スナハチ講ト云ハ 入道ノ源ナルモノカ 故ニ唐土我朝ニ古ヨリ講ノ名ヲ立テ修道ノ標識トシ報恩ノ経営ヲナス オボエズシテ蓮華藏世

書」の一部であります。さらに約三十年後には、第十八世圓遵上人から次の御書が下付されています。

界海ノ遊戯法門ニ入ルコトツトムベシハゲムベシ……
寛延四辛未六月二十八日
勢州安濃郡増信講江 圓猷

「ソモソモ苦惱ノ娑婆ヲイトヒ 安樂ノ仏土ヘ到ラント思ハム人……信心ヲ増長シ 講會退転ナク相続シテ マスマス法義ヲヨロコブノ条 モツトモ神妙ノ至リニ候ナリ 然

今から二百五十五年前の寛延四年（江戸時代中期）六月二十八日に、時の真宗高田派第十七世ご法主圓猷上人から、伊勢の国安濃郡の増信講（現在第十四組十七カ寺で厳修している大講）に下付された「御

穴賢
ラムカギリハ同行同伴相ス、メテ 報謝ノ称名懈怠ナキヤウニ 相嗜ムベキモノナリ
天明三 癸卯歳二月
勢州 安濃郡増信講江 圓遵



高田派第十七世圓猷上人



高田派第十八世圓遵上人

また、その後も第二十世圓禪上人、第二十一世堯熙上人などからも

御書の下付があり、当増信講では五通の御書を大切に所蔵して、毎年春秋の増信講法会でそのうちの二通を当番寺院の住職が参詣者の皆さんに對して、うやうやしく拝読させていただいています。

冒頭に挙げた圓猷上人の御書は、「講は、人々が仏道に入るための源となる集まりである。それゆえに古くから中国や日本で講を仏道に励む人たちの旗印として報恩の営みが行われている。私のはからいを捨てて弥陀の浄土の至上の法門に入るように努め励むべし。」というもので、講は、単に寺の法事ではなく、むしろ一般の人々が中心となった「同心同行の集まり」であり、こころのよりどころであります。

「講」は、奈良・平安時代に始まり、室町時代には、仏教以外にもいろいろな目的の講ができるようになりました。さらに江戸時代以降には、主として農村で一般の同信者に

よって阿弥陀仏や祖師（親鸞聖人）の徳を讃歎し、お念仏を喜ぶ佛教的集會が盛んになり、その後、増信講のように、佛教教団（寺）を中心とした同信者の集まりである「講」が各地に誕生しました。

それぞれの御書の最後には「勢州安濃郡」の増信講江とありますが、伊勢の国安濃郡は、その昔現在の旧津市から清水や太田あたりまでの安東郡と、それより西の安西村あたりまでの安西郡があり、その安西郡域が安濃郡となったようで、増信講の区域も、清水と太田を除く現津市安濃町に旧安西村（現津市芸濃町）の萩野と岡本が入っているのもそのへんに由来しているようであります。

そもそも増信講が始まった時期は定かではありませんが、約二百五十年前に圓猷上人の御書が下付されていることから、そのころにはすでに存在していたことは明かで、その何年も何十年も前から、私たちの先祖がこころの修道場として大切に営み続けてこられたものであります。

真宗高田派中興の祖であります第十世眞慧上人が伊勢の

国を教化されて以来（五百年あまり前）、第十二世堯熙上人の時代（一五五〇年ころ）に一身田が真宗高田派の本山として本格的に機能するようになったところから、現在の増信講が形作られたのではないかと考えてもあながち誤りではないように思えます。だとすると、四百年以上の歴史を持つ増信講ということになり、なんとも尊く意義深い法要であり、数知れぬ私たちの先祖のこころがしみこんだ法要であることに振るえんばかりの感動を覚えるとともに、このこころをしかりと受け継ぎ、また引き継いでゆく大きな任務と責任を担っていることを痛感する次第であります。

津市安濃町 長徳寺住職
高林亮英氏が総務に就任
されました。

発行所
真宗高田派宗務院内
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 33,000部

本当に聖人のご遺骨が 埋まっている御廟

平松令三

これは親鸞聖人の御廟を斜

上方から撮影した珍しい写真です。御廟の前に建っている拝堂の屋根が修理された際、足場が組まれましたので、そこから撮影しました。「聖人の御廟を上から撮影した写真を載せるとは失礼だ」とお叱りを受けるかもしれませんが、御廟の様子が最もよくわかる写真なので、あえてご披露しました。

これを見ると、土盛りした塚の上を石垣で囲み、その中央に平たい石があるだけで、墓碑も何もない簡素な造りです。墓というものに淡泊だった親鸞聖人にふさわしいお墓だ、とも言えましょう。

この御廟が作られたのは寛文十一年（一六七一年）で、現在の御影堂が建てられたのとはほぼ同時期です。その時の宝庫の記録に、伝承されたご遺骨の中から「齒骨五粒をとり出して埋める」と書いてあ

ります。

聖人が亡くなられたとき、顕智上人たちが葬儀を営み、ご遺骸は火葬にされました。そのご遺骨の一部を顕智上人が頂戴して関東に持ち帰り、下野専修寺境内にお墓を作りました。御遺骨の多くはそこに埋められましたが、一部は報恩講などで門徒たちに礼拝させるために残して宝庫に伝えられてきました。その中から五粒をとり出して、この一身田の御廟へ埋めたのです。ですから本当に聖人の御遺骨が埋められている御廟なのです。

（宝物館主幹）



御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181～2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店／京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121代
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」

お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

ご和讃のお話

中村 宜成

本師道綽禪師は

涅槃の広業さしおきて

本願他力をたのみつつ

五濁の群生すすめしむ

(道綽禪師第二首)



伝記によると、十四歳の時に出家された道綽禪師は、師について『大涅槃經』を研鑽されました。この經に説かれている仏説は、「涅槃」すなわち仏に至る完全な悟りについてであります。和讃にある「涅槃の広業」とは、禪師が仏教の基本ともいえるこの經典に精通し、数多くの講義を行って人々に伝えたことを指しています。ところが、禪師は馴れ親しんだ涅槃經を捨ててしまふのです。

禪師の時代は、仏滅後千五百年を過ぎた末法到来の時代であり、世相は五濁と呼ぶにふさわしいありさまでした。国土は蹂躪され、争いが絶え

ません。このような出来事は中国で仏教文化が発展するきっかけになりましたが、人々が困窮の生活を送っているのに、僧は国家に保護され安楽な生活を送っていることに批判が高まりました。そして、禪師が出家した直後、一転して廃仏という法難を引き起こすことになりました。この法難によって禪師は一時的に還俗させられてしまいます。数年後、禪師は再び僧にもどることができましたが、この出来事は禪師に自分自身を省みる大きな転機になったようです。『大涅槃經』には、人は皆、仏になれる尊い可能性をもち、全ての人が悟りを得ること

ができることと説かれています。しかし、このような末法五濁の時代に僧ですら悟ることが困難なのに、一般の人が悟りを得て救済されることは不可能である。禪師は衆生が救われる仏道を求め続けていたのです。そして、玄中寺で曇鸞大師の行蹟を記した碑文に出会います。禪師は無仏の時、五濁の世に生きざるをえない者が確実に救われるには、自力を捨て、阿弥陀仏の他力による以外はないと確信されるのです。

親鸞聖人がこの和讃を作られた時、聖人は禪師に対して深い共感の思いを懐かれたと思います。なぜなら、聖人を含めて浄土教の高僧方は何度も絶望的な状況にあっても、決して希望を失わず浄土教を広めることに尽力されているからです。そこにはこれまで学んだ教えを捨てなければならぬという葛藤があったと思います。しかし衆生の救済には浄土の教え以外にないというゆるぎない決意があったのです。この和讃は道綽禪師のそのような強い意志を表したもののなのです。

(四日市市 光輪寺住職)

本山納骨

おとどけまいり

私たち高田派の同行にはご遺骨を本山に納める、「おとどけまいり」の習慣があります。

これは一つには大切な方がお浄土へ往生されたことをご遺骨の一片をおしるしとして、ご開山親鸞聖人のお墓（御廟）の前でご報告のお参りをしていたかどうかという意味と、もう一つは、ご遺骨の一片だけでも聖人のおそばに納めさせていたいただきたいという私たちの願いから始まったものと考えら



ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お薦め商品(精進+和食ミックス)

本山会席

各種献立よりお選びいただけます。

◇精進料理 1人前 4,000円(税別) ◇本山会席 1人前 3,500円(税別)

お問い合わせ・ご注文は

〒高田青少年会館 TEL.059-232-6079



人気商品 高田本山流 精進料理

※ご自宅までマイクロバスで送迎(5名より14名様まで)

世の中安穩なれ 仏法ひろまれ

普段見ることのできない職人絵師の世界をご紹介します。



御本山絵所 『天井画展』

2007年 1月9日～16日

開山聖人のご正忌報恩講大法会(お七夜)

場所:本山宗務院2階 第3会議室

仏殿にささげる天井画。

四季折々、色とりどりの花鳥画等をご覧ください。

リレー法話

本願力に

あいぬれば

隆 妙灑

高田本山「コーラス海」では、いま親鸞聖人の御和讃「本願力にあいぬれば」を歌っています。「むなしくすぐる」というところで、いつもこの詩を思い出します。

「生」

杉山 平一

物を取りに部屋に入って何を取りにきたかを忘れて戻ることがある
戻る途中で
ハタと思い出すことがあるがその時は すばらしい

身体が先に この世に出てきてしまったのである
その用事は何であったのか
いつの日か思い当たるときのある人は 幸福である
思い出せぬまま
僕はすごすごあの世へ戻る

詩人は老境にあるのであろう。

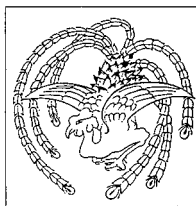
誰にでも経験のある日常のこまに、ふと「人生問題」を重ねて感じてしまった。この世に何をしに生まれてきたのか「人生の用事」が思い出せないと思っても死に切れない生きてても生き切れない、と。

「人生の用事」は自分の事ながら自分ではわからない。「思い出したい」という欲求は、自分を越えた「いのちの本来」の欲求である。

「本願力」はこのように、「人生の問い」を持たしめ、「人間の知性では答えられない」とを知らしめる。そして、「人間の知性では答えられない」ことを知らしめる。そして、「人間を超えた仏のはたらき・本願力」に遇わないと本当の満足はないよと促してくるはたらきである。

「本願力」は、私たちを不安や不満にさせるのであるが、とどのつまりは、仏教を聞くことを促し、むなしく終わらない人生を与えようとする親心である、といただきました。
(四日市市 浄福寺衆徒)

第42回檀信徒研修会



仏壇・仏具

ぬし与

ホーオーが目印 /

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・鈴鹿店・蟹江店・大安店・阿下喜店

高田本山御用達
三重県仏教会御推薦石碑
記念碑
燈籠

高級御影石専門店

御影石材(株)

(石に御用の方は)

☎0120-142540

本店 津市広明町(彰義寺門前)
☎059-224-1700(代)

仏事のQ&A

七高僧シリーズ6

源信和尚とは



親鸞聖人が七高僧の第六祖に上げてみえる源信和尚（九四二―一〇一七）は、恵信僧都とも、楞嚴院の和尚ともいわれます。

和尚は、天慶五年（九四二年）奈良県の当麻の生まれ、七歳で父と死別し、十三歳で出家し、天台座主慈慧（元三）大師良

源に師事し、天台教学を学ばれました。

少年時代よりその英才ぶりを発揮され、時の天皇、村上天皇は十五歳の少年源信和尚を宮中における法華八講の講師に任ぜられ、そのとき、和尚のすぐれた学徳は称賛をえて、ご褒美の品やお褒めの言葉を贈られました。そのことを喜んで和尚は、ただちに、これを母のもとに送って、この名誉を知らせましたが、母はわが子の心に名利心のめばえを感じとり、きびしいいさめの手紙とともに、それを送り返したと伝えられています。

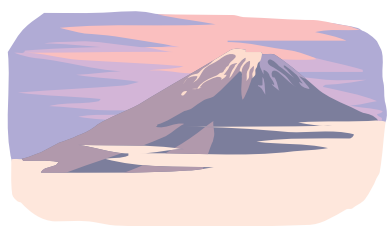
その手紙の最後に次の一首が書き添えられてありました。

「のちの世を 渡す橋ぞと

思いにし 世渡る僧と
なるぞ悲しき」

それより後、和尚は母の願いを心に深く感じ、仰せに随い名利の念を断って、ひとえに真の仏道を求めて研鑽に励まれました。

三十歳のころ比叡山横川の恵心院に入り、天台教学では恵心流を興し、日本浄土教の源流となりました。



和尚の著作は数十部におよび、なかでもとくに『往生要集』は、広く一代仏教の経文を集めて、濁世の末代における凡夫の往生浄土の道が、念仏の一門によるほかならないことを明らかにしています。この書は、当時の往生を願う人々の指針となり、また七高僧の第七祖の法然上人や御開山に大きな影響を与えています。『往生要集』に大きな感銘を受けた御開山は『浄土高僧和讃』（源信讃第八首）に、

煩惱にまなこさえられて
摂取の光明みざれども
大悲ものうきことなくて
つねにわがみをてらすなり
とうたわれ、源信和尚が浄土の教え、念仏の道を味あわれとおこころを讃嘆されています。（教学院第三部会）

もったいない？

「〇〇さん、あなたは食べものを残すことを、悪いことだと思っていないですか？」

ダイエット始めるにあたって相談した病院の栄養士の先生に、いきなり言われました。食べ物の好き嫌いがなく、出された物は多少量が多くても、無理をして残さず食べることが我慢だった私に、その後も信じられない言葉が続きました。

「それが間違いなのです。揚げ物や肉類が多いなと思ったら手を付けない。天ぷらは店の人の前でも、コロモを外して食べるくらいの勇気が必要です。量が多いなと思ったら迷わず残さない。」

昨今、マータイさんのおかげで、「もったいない」という言葉が改めて注目を浴びています。しかしこの飽食の時代にあつては、「もったいない」ということすら悪いことなのかとショックを受けました。しかし四十一年以上続けてき

た習慣は簡単には変えられず、今もすっかり空になった食器を前にして、「ごちそうさま」ということに喜びを感じています。



緑 と 共 に 75 年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77

TEL 232-7453

FAX 232-7453

会長お裏方様のご挨拶



第四十二回 高田派婦人連合大会 を開催

八月二十二日津市総合文化センターを会場に、約千二百人の参加者を集めて高田派婦人連合大会が開催されました。

第一部式典では法主殿お言葉、会長お裏方様ご挨拶、宗務総長挨拶に続いて、祖師寿（親鸞聖人と同じく数えの九十歳）を迎えられた方々の表彰が行われました。今年の祖師寿表彰を受けられた方は三百四十八名。その内四十一名がステージ上で元気なお姿を見せて下さいました。第二部特別講演は、高田短期大学教授栗原廣海先生に「圓融至徳の嘉号」という講題で、お話いただきました。

第三部には、高田幼稚園から「小さいお客様」が登場して、お名号に献花をした後、「あしたははれる」「やさしさに包まれたなら」の二曲を可愛らしい声で元気に歌いました。最後は会場と一緒に「故郷」を合唱して終了しました。



栗原廣海先生



祖師寿代表の挨拶をする打田きぬさん

『ひとくち法話』が
本になりました。



前回の本山だよりで紹介いたしました『ひとくち法話』を一冊の本にまとめました。

この本には、平成九年七月に発行された『ひとくち法話』の一号から一〇二号までを、『真宗の教え』や『お釈迦さまのご生涯』『親鸞聖人のご生涯』『高田派』など九つのテーマに分けて掲載されています。詳しくは本山宗務院までお問い合わせ下さい。

(TEL〇五九―三三一四七二)

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
石匠位認定店
全国優良石材店、認定店

創業100余年

株式会社

SHIEN
STONES

ストーンズ

石仙

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎0593-31-4114

サイコーユイシ

高田本山御用達

井筒法衣店

京都市下京区堀川通新花屋町角(西本願寺前)

(〒600-8503)

電話 (075)351-1234(代)

フリーダイヤル ☎ 0120-075-720

フリーダイヤルFAX 0120-075-490

一頁田寺内町まつり

十一月十二日(日)小雨決行
午前九時～午後四時

本山境内や寺内町、駐車場などを会場に、まさに町をあげてのお祭りです。

踊りや神輿、生け花展、盆栽展、千人豚汁などなど、町のあちらこちらでさまざまなイベントが目白押しです。

本山内に特設ステージが作られてコンサートや演奏会が行われ、当日は宝物館も開放されます。

また唐人踊りやしゃご馬、中野獅子舞など、寺内町以外から津市の伝統芸能も特別参加します。

ぜひご参加下さい。



歴史まるごと体験塾を開催

今年も七月二十四日～二十
六日の二泊三日の日程で歴史
まるごと体験塾が開かれ七十
六人の小学校五、六年生が参
加しました。

昔の暮らしを体験するとい
うことで、梅雨明け前とはい
え蒸し暑い日が続く中、冷房
もテレビもゲームも無い広間
に布団を並べて宿泊して、食
事も初日の夕食はメザシと冷
や奴、二日目の昼食は報恩講
のお非時、夕食は郷土料理の

さんまご飯と野菜の煮付、と
いうように、決して子どもた
ちの好物と言えない品々が並
びます。また二日目に自分た
ちで作ったコンニャクも、最
終日の昼食に田楽でいただき
ました。間食は、和菓子屋さ
んの作業場で、自ら作ったお
まんじゅうを食べただけです。
日が暮れた後は、歌舞伎や
狂言などの伝統芸能にふれ、
独楽まわしやお手玉、竹とん
ぼなどのむかし遊びをしました。

普段から近代的な暮

らしに慣れた子どもたち
には、さぞ辛い日々
かと思いきや、みんな
朝から笑顔が弾けて、
何杯もごはんをおかわ
りして、夜になっても
私たちの手に余るくら
い元気に走り回ってい
ました。

かつて私たちが経験
した不便な生活は、今
の子どもたちには珍し
くて興味ある生活なの
かもしれません。



白川晴顕著

浄土真宗は

目覚めの宗教

浄土真宗は目覚めの宗教、阿
弥陀さまの見方と大きな温も
り、親鸞聖人と常識を超えた
教え、御正忌報恩講に寄せて
愚かになつて卒業等二十数篇
の法話 定価1200円税込

無名会同人編

仏と人40

四天王寺の海 源義春／お仏
飯を歌う 南部松雄／人生の
最終コーナー 森正隆／救い
を担ぐのか 正隆／救い
ということ(その一)とくに現
生正定聚をめぐって 梯實
／尋常に非ず、臨終に非ず
高田慈昭／世の中安穩なれ
足利孝之 定価410円税込

稲城選患著

他力の信心は

awakeか

定価500円税込

稲城選患著

静的宗教と

動的宗教

定価500円税込

梯 實圓著

白道をゆく

善導大師の生涯と信仰

定価2520円税込

600-8342 京都市下京区花屋町西洞院西入
永田文昌堂
FAX 電話 0755-33711・96651
振替 0150-23511・4・96651

これからの本山諸法会

◆讃仏会

九月二十日～二十六日

高田派のお彼岸は、み仏のお徳を讃え、ご先祖の恩を謝し、法縁を喜ぶ仏徳讃嘆の法会であり讃仏会とよばれています。毎日、朝七時と昼十一時半の二回、勤行とお説教が勤まり、中日の二十三日には法主殿の御親教がごいます。春のお彼岸にも、同じく讃仏会が勤まります。

◆資堂講法会

十月一日～三日

正式には永代資堂講法会と言われ、普く有縁の方々が加入できる講として設けられ、ご教化の一端も担っています。法会には講加入者に案内が送られ、法名が記載された過去帳を中央卓に置いてお勤めされます。

◆納骨堂法会

十一月三日・四日

宗祖親鸞聖人のお徳を偲ぶとともに、私たちの大切な人も聖人の御廟のそばに葬ってあげたいという願いから、本山に亡くなられた方のご遺骨（分骨）を納める納骨の習慣が出来ます。

昭和三十八年には、個人の納骨壇にご遺骨を納める、納骨堂が造られました。

法会では本堂でのお勤めに先立って、法主殿または法嗣殿とともに多くの僧侶が山内を行列で進み、御廟と新納骨堂・第二納骨堂を参拝されます。



◆秋法会

十一月五日～十日

春の千部法会（正式には講千部法会）と同じく、進納所でご招待して勤まる法会です。本山内の賜春館（明治天皇が宿泊された建物）で法主殿のご対顔をあいだ後、本堂にて参詣します。

これからの本山行事

◆第四十三回檀信徒研修会

十月二十四日午前九時半開会

「く和讃に学ぶ」他力本願とは」をテーマに高田派お同行の研修会です。午前中は愛知県岡崎市浄泉寺住職戸田信行師の法話やビデオ鑑賞、午後は班別の分散会で意見の交換や、質疑応答を行います。参加申込は宗務院教学にて受付けます。

◆教学院研究発表大会

十月三十一日午前十時開会

高田派の研究機関、教学院には第一から第五まで五つの部会があり、各部会ではそれぞれのテーマを持って研究を行っています。当日はそれぞれ



れの部会からの代表五名に、応募された一般の僧侶が、二十分の持ち時間で行ってきた研究について発表を行います。また午後には講師を招いて特別講演も行われます。聴講は無料です。

◆秋季婦人連合研修会

十一月七日・八日

別院や一般寺院には女性お同行の集まり、婦人会があるお寺があります。それら各お寺の婦人会の集まりが高田派婦人連合研修会です。毎年春と秋の二回、一泊二日で法式作法や法話、講演などを聴聞したり、座談会でコミュニケーションを深めたりします。

近年、秋の研修会では、初日の夕方に近くの温泉に小旅行をすることが多く、今年も計画中です。

参加ご希望の方は宗務院教学課へ申し込んでください。

編集後記

聞こえてくるセミの声が、クマゼミやアブラゼミから、

寺院名

季節の変化は今も昔も変わらない。ただ私の自分勝手な分別が夏を嫌うようになっただけでしよう。

年齢を重ねて今は、残暑がきびしい折にツクツクボウシの声を聞くと少し嬉しくなります。

印刷のご用命は

オリエンタル印刷 株式会社

本社・工場 三重県津市河芸町上野2100

(059) 245-3111 (代)

F A X (059) 245-1177